

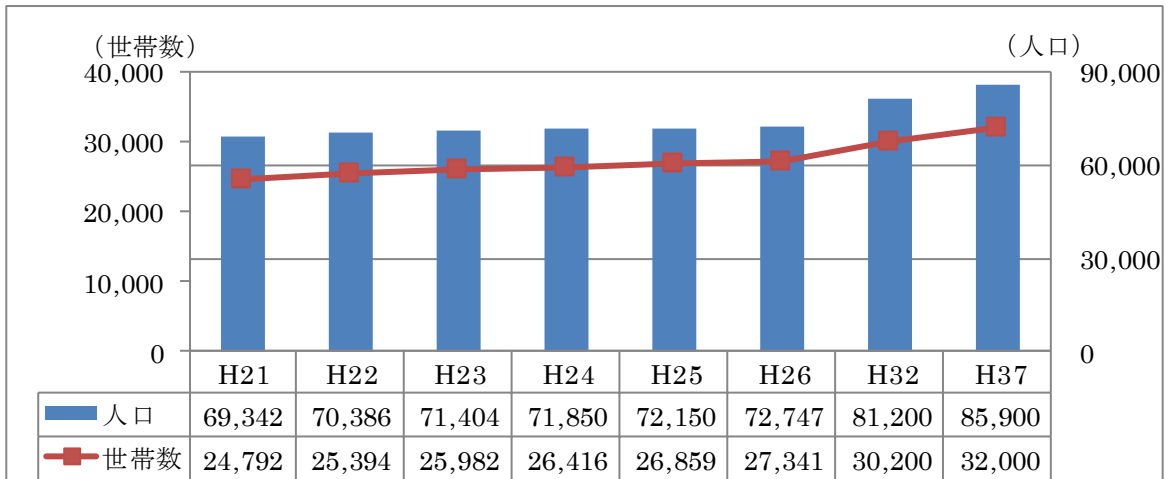
2. 木津川市の現状

I. 木津川市のごみ処理の現状と課題

ごみ処理の現状

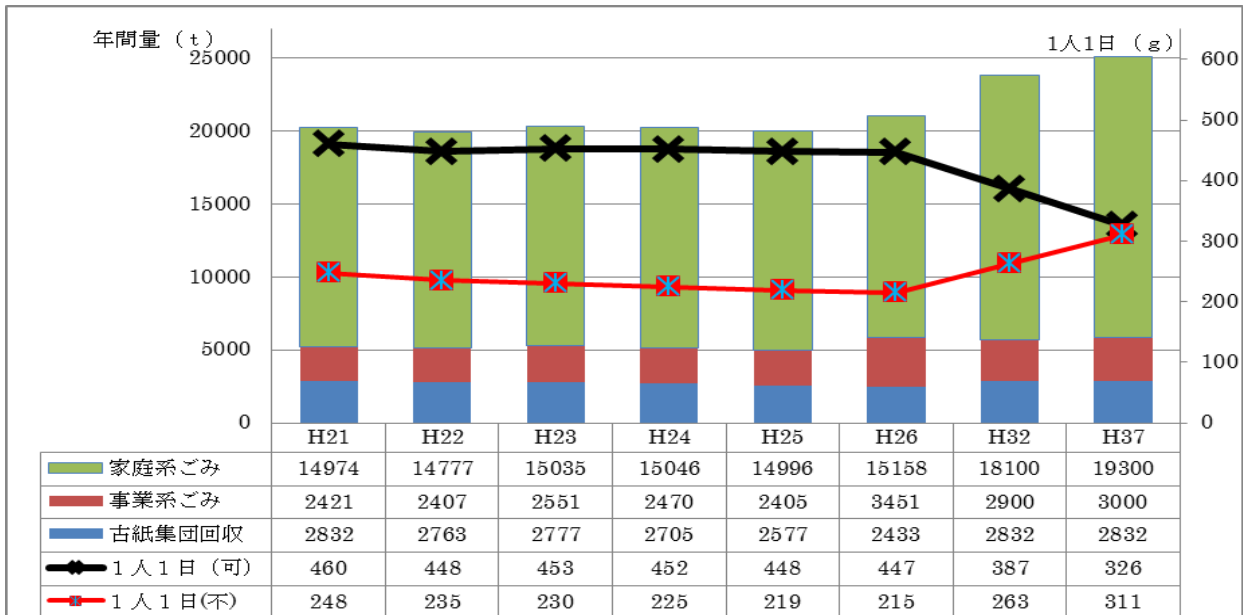
① 人口・世帯数の推移

全国的に人口減少が進む中、本市では現在も増加傾向にあり、平成 37 年には人口、世帯数はそれぞれ約 85,900 人、約 32,000 世帯になる見込みです。(木津川市ごみ減量化推進計画による)



② ごみ排出量の推移

ごみ排出量は、人口や世帯数が増加傾向にあるものの、家庭系ごみ及び事業系ごみの排出量は、いずれもほぼ横ばいで推移しています。



1人1日(可)・・・市民1人が1日に排出する「可燃ごみ」の量

1人1日(不)・・・市民1人が1日に排出する「可燃ごみ以外のごみ」の量

棒グラフ・・・予測値(※)

折線グラフ・・・目標値

③ ごみ減量化推進計画

木津川市ごみ減量化推進計画（もったいないプラン）

一般廃棄物処理基本計画を推進するための指針として平成25年1月に策定

「もったいない」という心を大切に、3R及びリムーブの施策を展開

《目標》

- 1人1日当たりの家庭系ごみについて
 - ・燃やすごみの排出量を30%（約134g）削減します。
 - ・燃やすごみ以外の排出量を5%（約20g）削減します。
- リサイクル率を40%にします。

具体的な目標数値

平成37年度 家庭系ごみ発生原単位 （1人1日あたりの排出量）

可燃ごみ（廃プラスチック含む） 326g

可燃ごみ以外のごみ 311g

④ これまでの取組状況

ごみ減量化推進計画において、可燃ごみの排出量を平成21年度から平成37年度に向けて30%の減量为目标に定めており、目標達成に向けたごみ減量施策の取り組みを以下のとおり進めているところです。

更なるごみ減量施策展開の概要

	内 容
生ごみ処理機講習会	講習会 6回(各15名) EMバケツ、ダンボールコンポスト 《H27取組み状況 参加回数4回 参加者 延べ52名》
生ごみ対策モニター制度	EMバケツ、ダンボールコンポスト(各30名) 《H27 モニター申込み状況 18名》
給食残渣「ゼロ」活動	コンポスト、EMバケツ、ダンボールコンポスト配置 (保育園：8園 小学校：13校 中学校：5校) 1,612千円(見込)
給食センター厨芥削減対策	給食センターから排出される生ごみ削減に向けた取組み(H28～ 全量(70t)リサイクル(堆肥化))
京都大学農場との連携事業	モデル地域指定による生ごみの分別回収 京大農場との連携によるゼロエネルギーファーム(ZEF)における 廃棄物系バイオマス活用の検討 17,339千円(見込)

雑紙レンジャー作戦の取組み	家庭内ごみ箱から雑紙の分別、定期回収活動 (小学校：13校) 650千円(見込)
ふれあい収集	H27.4取組開始 (現在利用者数 10名)
資源有効利用設置整備補助金	継続事業 H27 予算:888千円 実績額 (H24 738 / H25 880 / H26 739)
リサイクル研修ステーション管理 運営事業	継続事業 H27 予算:10,868千円 実績額 (H24 7054 / H25 9221 / H26 9005)
古紙回収団体補助金	継続事業 H27 予算:17,380千円 実績額 (H24 13525 / H25 12885 / H26 12164)
不法投棄パトロール	継続事業 H27 予算:1,418千円 実績額 (H24 1051 / H25 1100 / H26 1076)
アダプトプログラム活動	継続事業 H27 予算:410千円 実績額 (H24 317 / H25 329 / H26 312)
不法投棄物等処分委託料	継続事業 H27 予算:200千円 実績額 (H24 198 / H25 184 / H26 200)
情報発信事業	継続事業
小型家電リサイクル制度	継続事業

ごみ処理経費の推移

(千円)

ごみ処理経費		平成24年度	平成25年度	平成26年度
収集運搬費用	可燃ごみ	230,670	233,276	257,574
	不燃ごみ	179,965	181,457	203,871
処分費用	可燃ごみ	287,288	332,416	383,415
	(起債償還額)		(内 36,109)	(内 36,058)
	不燃ごみ	134,659	135,660	141,130
合計		832,582	882,809	985,990
人口		71,850	72,150	72,747
1人当たりの処理経費		11,588	12,236	13,554

※ 処分費用(可燃ごみ)の増加の原因は、打越台環境センターの老朽化により搬入量が制限され、制限超過分を民間事業所で処分していること、及び平成25年度から同センターの大規模改修により起債の償還が始まったことによる。

《民間事業所への搬入量推移》

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
民間処理量(t)	4,996	5,504	6,751

⑤ 減量計画の目標数値の状況

《目標基準年度》	《現状》	《目標値》
燃やすごみ 445 g/人・日	燃やすごみ 433 g/人・日	燃やすごみ 311 g/人・日
廃プラスチック 15 g/人・日	廃プラスチック 14 g/人・日	廃プラスチック 15 g/人・日
【平成21年度】	【平成26年度】	【平成37年度】

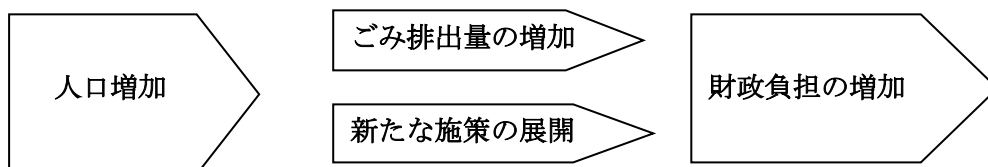
可燃ごみ

『平成26年度の削減量は、目標値の僅か3%であり、目標達成には、更なるごみの減量化に向けたシステムづくりが必要です。』

課題

開発等により今後も人口の増加が見込まれます（平成37年度85,900人）

「その結果・・・」



⇒ 目標数値の達成に向けた更なる具体策の検討が必要

そこで・・・

- ◆ 更なるインセンティブを付与した効果的な取組みの推進
 - 意識啓発などソフト対策の充実
 - 生ごみ減量化に向けた施策の充実
 - 古紙類削減に向けた施策の充実
 - 他部局との政策統合による対策の充実
- ◆ ごみ有料化制度の導入に向けた効果について検討

Ⅱ. 『燃やすごみの組成調査』の結果

今年10月に家庭から排出される「燃やすごみ」の組成調査を実施しました。

過去の調査と今回の調査は、同じ地区を対象に実施しており、それぞれの調査結果を比較することで、ごみの減量・資源化等についてどこまで市民の意識が高まっているのかを知る目安になります。

1) 組成調査の概要

○調査対象地区とサンプル数

農業センサス、国勢調査等を用いて、旧町単位に新興住宅地、既存市街地、農村集落地の3地域から、それぞれの世帯数を基にサンプリングする袋数も調整の上選定し、対象地区や袋数を全て前回と同じとした。

地区	総数	新興住宅地	既存市街地	農村集落
旧木津町	133袋	85袋	43袋	5袋
旧加茂町	48袋	15袋	28袋	5袋
旧山城町	26袋	— 世帯	21袋	5袋
市全体	207袋	100袋	92袋	15袋

○調査のためのごみ収集実施日

第1回	平成23年10月14日	第2回	平成24年 2月 3日
第3回	平成24年 6月 8日	第4回	平成24年 8月 5日
今回	平成27年10月 9日		

2) 組成調査の結果（速報値）

種別毎の重量・割合の推移

種別	項目	H23.10 第1回	H24. 2 第2回	H24.6 第3回	H24.8 第4回	H27.10 今回	
プラスチック類	重量(kg)	26.91	22.61	27.92	30.54	22.52	
	割合	8.37%	6.81%	8.77%	9.55%	7.39%	
	容器包装	重量(kg)	22.24	17.98	19.26	22.53	16.98
		割合	6.92%	5.42%	6.05%	7.04%	5.57%
	その他	重量(kg)	4.67	4.63	8.66	8.01	5.54
		割合	1.45%	1.39%	2.72%	2.50%	1.82%
ゴム・皮革	重量(kg)	1.29	1.28	0.6	2.28	0.84	
	割合	0.40%	0.39%	0.19%	0.71%	0.28%	

紙類	重量(kg)	108.11	117.87	94.23	101.39	103.66
	割合	33.64%	35.51%	29.61%	31.69%	34.03%
容器包装	重量(kg)	23.26	22.12	17.8	21.99	19.61
	割合	7.24%	6.66%	5.59%	6.87%	6.44%
古紙	重量(kg)	30.68	29.93	22.68	23.55	23.05
	割合	9.55%	9.02%	7.13%	7.36%	7.57%
その他	重量(kg)	54.17	65.82	53.75	55.85	61
	割合	16.85%	19.83%	16.89%	17.46%	20.03%
繊維類	重量(kg)	9.99	7.02	12.19	8.44	19.64
	割合	3.11%	2.11%	3.83%	2.64%	6.45%
衣類	重量(kg)	0.69	1.68	1.09	1.43	6.84
	割合	0.21%	0.51%	0.34%	0.45%	2.25%
その他	重量(kg)	9.3	5.34	11.1	7.01	12.8
	割合	2.89%	1.61%	3.49%	2.19%	4.20%
木片	重量(kg)	3.15	1.34	2.12	2.61	1.88
	割合	0.98%	0.40%	0.67%	0.82%	0.62%
草木	重量(kg)	6	5.11	9.57	5.41	11.29
	割合	1.87%	1.54%	3.01%	1.69%	3.71%
厨芥類	重量(kg)	151.02	154.99	147.27	150.43	133.32
	割合	46.99%	46.69%	46.27%	47.02%	43.77%
手付かず 食材	重量(kg)	22.12	18.64	24.16	27.35	15.33
	割合	6.88%	5.62%	7.59%	8.55%	5.03%
一般	重量(kg)	128.9	136.35	123.11	123.08	117.99
	割合	40.11%	41.07%	38.68%	38.47%	38.74%
ガラス	重量(kg)	1.16	0.06	0.01	0.33	0.16
	割合	0.36%	0.02%	0.00%	0.10%	0.05%
金属	重量(kg)	0.87	4.9	0.56	1.02	0.84
	割合	0.27%	1.48%	0.18%	0.32%	0.28%
陶磁器	重量(kg)	0	0	0	0	0
	割合	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
その他	重量(kg)	12.89	16.78	23.82	17.49	10.45
	割合	4.01%	5.05%	7.48%	5.47%	3.43%
計	重量(kg)	321.39	331.96	318.29	319.94	304.6

○プラスチック類

容器包装の割合は減少しており、分別がさらに進んでいることがうかがえます。その他のプラスチックは、4年前の同時期と比べると、高い割合で含まれているものの、第3回、第4回調査から比べると、2割以上減少しています。

○紙類

容器包装が1～2割減少しており、こちらも分別の進行が見られます。

古紙は、集団回収等の成果もあってか、1、2回目から比較すると3回目以降は2割以上減少しており、その後、ほぼ同水準で推移しています。

なお、その他の紙類は、前回と比べて1割程度の増加傾向にあります。要因としては、子供用の紙おむつやレシート等のリサイクル不可能な紙の増加であります。

○繊維類

繊維類の内、衣類の排出量が増加しています。容量は約50リットルであるため、衣替えに併せて多くの衣類を処分されたものと思われる。

なお、本調査においては、一袋全てが衣類であれば、望ましいデータが出ないため、調査対象から除外しており、今回の衣類は、他のごみに混じって数袋に分散して排出されたものと思われる。

○草木

草木は、剪定枝が前回と比べて倍以上に増加しています。季節的なこともありますが、庭木の剪定を業者に依頼せずに、市民自らでされる方が増えつつあり家庭ごみとして排出されることが要因と考えられます。

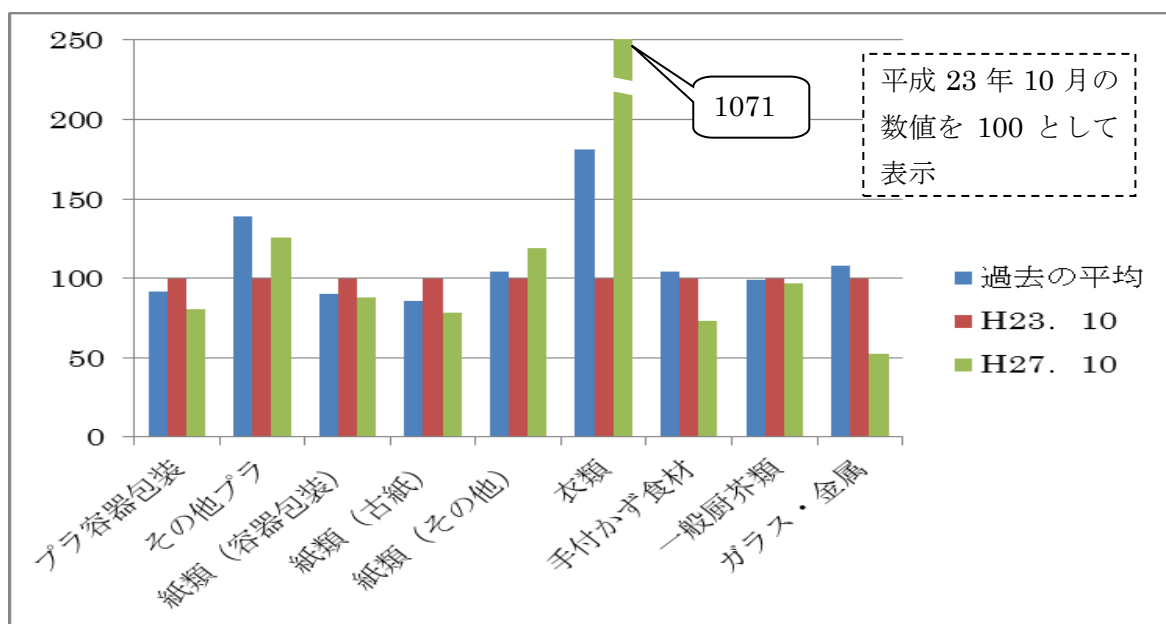
○厨芥類

厨芥類を形成する手付かず食材、一般厨芥類ともに減少しています。特に手付かず食材については、前回より4割以上減少しており、さらに、一年を通して最も少ないと思われる冬場（第2回）よりも減少していることに注目できます。

○ガラス類、金属類

ガラス類、金属類ともに、毎回少量が含まれているものの、飲料消費の多い夏場（前回）よりは2割以上減少しています。

4年前の同時期との比較

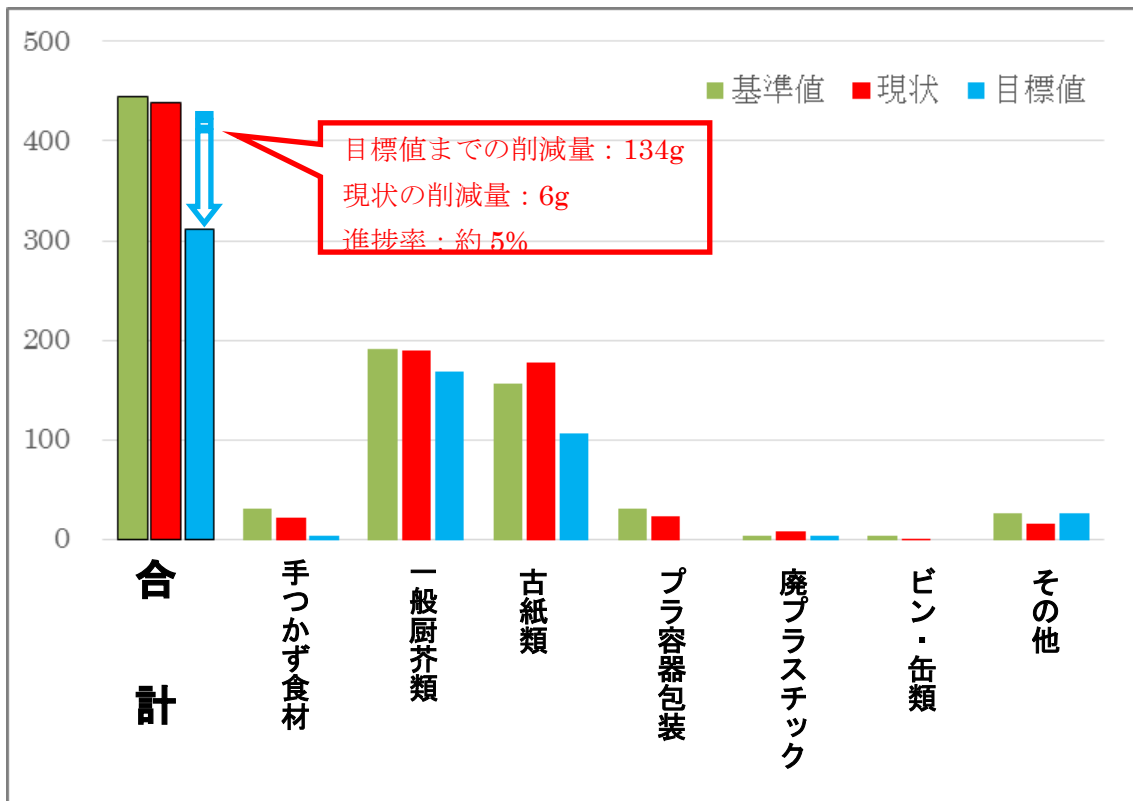


評価

組成調査の結果だけで過去の数値と比較すると、プラスチック類や厨芥類は全般に効果が表れているように思われます。

しかしながら、減量目標値と現状の数値を比べると次のような状況で、目標値に対しては、全体で約5%の進捗率にであります。

分類		基準値	現状	目標値
厨芥類 (草木類含む)	手つかずの食料品	31	22	4
	一般厨芥類	192	190	169
古紙類等		156	178	107
プラスチック類	容器包装	31	24	0
	廃プラスチック	4	8	4
ビン・缶類		4	1	0
その他		27	16	27
合計		445	439	311



課 題

- 地域（旧町）ごとに分別区分が一部異なっている状況、更なる再資源化を進める方向で統一する必要性
- 古紙類を「燃やすごみ」から分離する仕組みづくり
- 収集方式の検討の必要性（拠点・戸別）

そのためには・・・

◆負担の公平性・責任所在の明確化の必要性

拠点回収から戸別回収に変えることで、ごみ袋ごとに排出者が特定できその責任の所在が明確になり、分別等の意識が高まる効果が期待できる。

◆分別・収集などのごみの減量・リサイクルに向けた、統一した制度の確立

古紙回収を市の回収や地元組織による集団回収がされていない地域については、燃やすごみでの排出になりがちなので、古紙回収の制度を確立することで、リサイクルと燃やすごみの減量化が期待できる。